

北陸有数の教育先進地を目指す

笠松幹生・石川県宝達志水町教育委員会学校教育課長

2021年5月に実施された全国学力・学習状況調査で、石川県宝達志水町の小学校6年生は、国語、算数ともに県平均を大きく上回り、全国的にも上位の成績を収めた。中学校3年生も同様の成績を残している。一方で、小中学校共通の課題は、英語と理科の学力のさらなる向上と子供たちの学習に対する主体性を高めることだ。これらの課題を克服し、能登半島にあっても北陸有数の教

「東大王」「ドラゴン桜」で意識改革

重要なのは、主体的に「学ぶ力」の育成だ。子供たちの日々の学ぶ意欲を

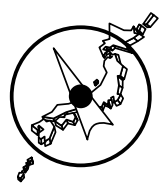


〈写真1〉講演する東大王の林輝幸さん(立志の集い)



〈写真2〉リアル「ドラゴン桜」西岡杏誠さんが講演

高めるため、21年2月には、クイズ番組「東大王」で「ジャスコ」の愛称で親しまれていたタレントの林輝幸氏(写真1)に来町してもらい、当時の中学校2年生を対象に「努力することの重要性」について語ってもらった。
同7月には、漫画「ドラゴン桜2」とこれを原作とするテレビドラマの監修を務めた作家西岡杏誠氏(写真



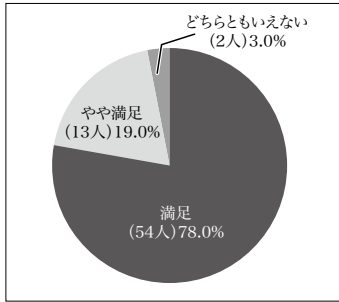
真2)を招き、中学校2年生を対象に講演してもらった。「なれません」のほとんどは幻想だ」と説く西岡氏の言葉に、生徒たちは、はなから諦めることなく、まずは行動してみようという前向きな思いを抱くことができた。

西岡氏には別途、保護者にも講演してもらった。「子どもの可能性を信じて」と題した講演は、保護者にとって今後の子供との関わり方を考える良い機会となった。

生徒たちの意識改革の導き手として、西岡氏には今後も継続的に本町に関わってもらおう。秋には意識改革の進展状況の確認も含め、今後の学び方について、中学校2年生を対象に2回目の講演を行うとともに、中学校3年生にも受験直前の心構えについて話してもらおう予定だ。

学校で学んだことを確実に定着させるため、本町は塾などの民間活力も積極的に導入している。20年12月、新型コロナウイルス禍に伴う学習不安解消策の一環として、金沢市の学習塾「金沢育英センター」の講師による英語の集中講義を開催した。受験を控える中学校3年生を対象にした講義には、8割の生徒が参加した。受講した生徒の満足度は非常に高く、学校での学習内容を捉え直す契機となったほか、講師の示した効率的な問題の解き方が参考になったようで、9割の生徒が満足と感じ(写真)、再受講を希望するなど大変好評だった。
21年7月には、本町出身者が経営する学習塾「東大セミナー」の講師による集中講義を実施し

〔図〕講義内容について



2021年1月、同町教委調べ

与えることと
なつた。
積極的な学
習態度の育成
は、低年齢の
時こそ肝要だ。
21年度から小
学校高学年を
対象に、公益
財団法人金沢

中高生の学習を支援した。
21年度は中学生を対象に、本町の宝達中学校出身の東大生と金沢大学生がチューターを務めた。年齢の近いOBが、後輩一人ひとりに直接指導したことは、学校の教員とは違う刺激を生徒たち

も参観した。学習塾のノウハウを取り入れることは、生徒の学力向上のみならず、教員の多忙改善の一助にもなると考えている。

た。20年度の生徒の声を生かし、英語だけでなく、国語、数学、社会、理科の講座も開講した。夏休み中の学習に臨む姿勢についても助言してもらった。リクルートが運営するオンライン講座「スタディサプリ」でも活躍するカリスマ現代文講師柳生好之氏による講義は「写真3」、生徒たちにとって貴重な体験となった。

教員の指導力向上

子ども科学財団の元職員による科学実験教室を開催している。身近な事象をテーマとした実験教室は児童にも好評で、子供たちは、条件を変えた場合、結果がどう変わるか試行錯誤を繰り返して、深く学ぶ態度、じっくり考える姿勢を身に付けた。教員にとっても、子供の意欲を継続させ、熟慮させるための発問の仕方が大変参考になっている。

本町は、教員の授業力向上にも力を入れている。金沢大の教授に授業を参観後、指導法について助言してもらう研修会を開催しているほか、教員OB、OGを学級経営アドバイザーに任命し、町内小学校の若手教員の指導に当たってもらうている。アドバイザーは、若手教員の日々の学級経営



〈写真3〉カリスマ講師による国語集中講座



〈写真4〉授業を参観するアドバイザー

や授業を参観し「写真4」、気付いた課題についてスピーディーに改善方法を示し、具体的な指導を行っている。

これにより若手教員の指導力と授業力の底上げが図られ、児童は朝から落ち着いた雰囲気ですべてに集中して臨むことができるようになってきている。教員も積極的に新しい教育について学ぶとともに、情報通信技術（ICT）を有効に活用した授業の在り方についても研さんを積んでいる。

本町は、20年度から始まった第2次総合計画の副題に「育てよ！町の宝」を掲げ、学校教育と子育て支援環境の充実を入れる姿勢を鮮明にしている。寶達典久町長は「若者が夢に向かってたくましく育っていく、元気な町を目指す」と語っている。

コロナ禍で制約がある中、本町は子供の「学びの保障」を第一に、今後もさまざまな施策を講じていく。幸いにして、子供たちを取り巻く環境は良好であり、町出身者をはじめ教育関係のリソースにも恵まれている。これらを生かし、子供たちの可能性を伸ばすことが、結果として町の魅力の向上、ひいては「教育立町」の実現につながると考えている。